

### 2011年3月期決算説明会 主なQ&A

Q 今年度の新幹線収入の見通しの考え方は。

A 東日本大震災の影響で落ち込んでいる東京方面のお客様のご利用が今後少しずつ回復し、年末には元の水準に戻るという前提で作成した。上期で対前年90億円程度の減少、下期で対前年45億円程度の増加、通期では対前年44億円の減少、率にして98.6%と見込んでいる。これには、羽田空港拡張による航空機の増便やうるう年の影響等も織り込んでいる。

Q 九州新幹線との直通運転効果について、昨年度は開業直後の20日間で8億円、今年度は通期でさらに85億円と見込んでいるとのことだが、日割り換算して見た場合、効果がスローダウンしている理由は何か。

A 開業直後のご利用は高めの水準だと考えられるので、その分を修正したうえで見込んでいる。

Q 東日本大震災の今年度の営業収益への影響をグループ全体で300億円程度織り込んでいるにもかかわらず、大阪の新しい百貨店の初年度の売上げ見通しを従来の550億円から修正していないのはなぜか。また、旅行業、ホテル業への震災の影響をどのように見ているか。

A 大阪の新しい百貨店については、子会社の感覚や意欲を踏まえたうえで修正は必要ないと判断した。旅行業については、震災の影響を大きく受けており、特にインバウンドは相当長期に亘って回復が見込めないのではないかと見ている。ホテル業については、今は空室が目立つものの、激しく落ち込むことはないとしている。

Q 「JR西日本グループ中期経営計画2008-2012見直し」の最終年度である2013年3月期における連結営業利益見通し955億円を達成するためには、今年度見通しの685億円から270億円の増益が必要になるが、どのような増益要因がどの程度見込めるのか。

A 東日本大震災の影響により今年度の運輸収入が200億円程度落ち込むと見ており、来年度はその反動増が出てくると考えている。また、減価償却費は、2007年度の制度改正に伴って上乘せされている残存簿価5%部分の償却60億円程度が今年度でなくなるなどから、今年度がピークで来年度は減少する見込みである。したがって、来年度の連結営業利益見通しは十分達成可能であると考えている。

以上